

研究区分	教員特別研究推進（独創・先進的研究）
------	--------------------

研 究 テーマ	妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響 －他施設で出産する女性に焦点を当てて－				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
	研究協力者	所属・職名	前 看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	中川 有加
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 実穂
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	福島 恭子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
		所属・職名	前 看護学部・助教	氏名	池田 美音
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	高橋 明味
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美

講演題目
妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響 －他施設で出産する女性に焦点を当てて－
研究の目的、成果及び今後の展望
〈研究の目的〉静岡市内では、35 の助産所が出産施設退院後から産後 4 ヶ月の間に母親の身体的回復と心理的安定を促進し母子とその家族の育児を支援する産後ケア事業を実施している。一方で日本においては 99% の出産が病院・診療所で行われていることから、多くの母親が妊娠から出産までの支援は病院・診療所で、退院後の子育て支援は助産所等で受けていることが推察され、妊娠期から継続的な支援を受けることができていない可能性がある。こうした現状から、本学看護学部母性看護学・助産学領域では、静岡市助産師会と連携し、令和 4 年度教員特別研究「病院出産を選択する女性が妊娠期から地域開業助産師と繋がることによる産後うつ予防の効果（研究代表者：高木 静）」以降継続して、すべての母子が妊娠中から地域開業助産師と知り合うことを目的とした「地域助産師との交流会・Go to 産婆-」（以下、交流会）を企画・運営してきた。本研究では、引き続き交流会を企画して女性と地域の助産師との交流機会を提供するとともに妊娠期の女性にとって妊娠期から出産施設以外の助産師と交流し、継続的にケアを受けることがどのような経験となり、妊娠・出産・子育てにどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とした。 〈研究の成果および今後の展望〉 令和 7 年 5 月～令和 8 年 3 月まで静岡市内 20 会場で交流会を開催し、のべ 152 名の妊婦・母親等が参加した。交流会のファシリテーターは、静岡市助産師会所属の開業助産師等が務めた。6 月 14 日には、助産師に関心のある学生を主な対象とした交流会を本学小鹿キャンパスで開催し、中高生を中心に 27 名が参加した。交流会では各回でテーマを設定し、参加者と助産師が自由に語り合った。アンケート自由記述からは、継続的に交流会に参加する女性が地域の助産師との交流を楽しむにすることが示唆された。一方で、交流会で初めて助産所を訪れた、病院で出産し助産所を知らなかったという参加者もいたことから、病院・診療所で出産する妊婦が地域の助産師を知る機会は十分でないと考えられる。 本研究により、女性やその家族が地域の助産師と気軽に交流する機会を創出することができた。今後も継続的に交流会を開催し、地域の女性と助産師との交流機会を提供していきたい。